種名	ガ　　マ Typba latifolia 				
分類	被子植物単子葉植物網ガマ科	俗称	ヒラガマ、ミスクサ	生活型	多年草、抽水植物
分布	千島（クナシリ島）、北海道、本州、四国、九州に広く分布するほか、朝鮮半島、中国大陸および北半球一帯に広く分布し、またオーストラリア全域にも分布する。				
形態	根：白色円柱状の太い根茎が地下の泥中を横に走り、各節から多数のひげ根を束生する。 葉：5～6月頃、剣状の葉を十数個、袴状に互生する。葉は粉白色を帯びた青緑色、線形で長さ1～2m、幅1～2cmあり、厚くて毛はなく、内側の葉の基部を深く抱き、径5～6cmある短い茎状の偽茎を作る。 茎：葉間から円筒形の堅く丈夫な花茎を直立し、頂部に肉穂花序をつける。花茎の高さは花穂を含めて1～2mになる。 花：花期は6～8月。茎の頂上に雄花群を、その下方に雌花群をつける。雌花群は雄花群に接しており、間の花軸は裸出しない。 雄花群は淡黄色で長さ8～10 cm、径1～1.5 cmで、花粉を放出した後、花軸だけを残して脱落する。雌花群の果穂は長さ 10～30 cm、径2～3cmのビロード状の円柱形で、はじめは緑褐色であるが、9～10 月頃果実が熟すと赤褐色の、いわゆるガマの穂となる。 果実：果実は堅果で、熟すと白い冠毛をもつ種子ができ、果穂の上方から順次離れ、風によって遠方まで飛散する。				
類似種	コガマはガマに似ているが少し小さく、茎の高さは1～1.5m。葉は細く幅1cm以下で、雌花群（穂）も長さ6～10 cmと短い。 ヒメガマは、茎の高さが 1.5～2mになるが、雌花群と雄花群の間に花のつかない裸出した軸があることで区別される。				
生息場所	各地の池沼や河川の水辺、原野の水湿地に群生する。泥底の浅い水中から直立する。また、水田耕作放棄地にも生育する。				
繁殖	種子と根茎（地下茎）で越冬し、繁殖する。花期は6～8月で、結実して堅果を作る。種子は風で飛び散る。種子からの繁殖もすばやく行なわれる。				
他生物との関係	ニカメイガ、オオチャバネヨトウなどの食草である。				
配慮のポイント	○魚類などの産卵や避難場所として利用されている。また、栄養塩類の除去などの水質浄化に役立っている。 ○水域と陸域の連続性の確保は鳥類・昆虫・両性類などの生息の観点からも重要となる。 ○河川改修の実施に当たっては、抽水植物の生育する水際線を極力、保全する必要がある。				
トピック	○ガマやヒメガマの花粉は漢方では蒲黄とよばれ、止血剤や利尿剤として利用される。 ○地下茎は澱粉を含むので食料となるほか、若い茎や穂も食べられるという。 ○穂綿は詰め物に、葉は敷物に、茎はすだれなどに利用される。				
その他					
引用文献：『川の生物図鑑』を改変					